

1. 定義

※ここで示す「3.」の留意点は、EBPM事例研究会における議論の到達点として記載する参考指標であり、これに義務付けられるわけではなく、むしろこの参考指標を批判的にご検討いただきながら、自らの活動(政策、事業等)に相応しいロジックモデルを構築いただければ幸いです

長期にわたり、自然現象や社会現象など自ら管理できないデータを観測(取得)・記録(蓄積)し、データ利用者への提供・公開を行う行政活動のこと。データ観測・記録のための機材や設備等の設置、保守点検等もあり、「施設管理型」の要素がごく一部含まれる。データの連続性と信頼性が成果の核心。

なお、データを基に予測をしたり、分析をする運用(公共オペレーション)はこの型には含めない

2. 特徴

：「データ観測・記録型」の本質的な特徴として、次のものが見いだせる

(i) **長期性**……長期に反復継続してデータを蓄積する

※ データ観測(取得)により即時対応の必要性を察知し、運用(公共オペレーション)が始まることもある。つまり、こうした短期的成果もあり得る。その意味で短期的成果と長期的成果の両面があることも特徴

(ii) **非顕在性**……欠測ゼロ、故障ゼロが重要。日々の成果は不可視

(iii) **環境感応性**……外部環境や技術進歩等により、データの取得方法や数値自体が変動しやすい

3. ロジックモデル作成・見直し時の留意点

※インパクトは、多くの場合、防災・減災の高度化、科学的知見の蓄積又は政策判断の質の向上に資することであり、その行政活動の「使命」や「任務により期待される社会への波及効果」を記載し、固定する

アクティビティ

(対策の具体的中身)

アウトプット

(対策の結果、直接の変化が期待されるターゲットの状態=対策の目標)

アウトカム

初期/短期

(アウトプットの影響を受け、何が変わるのか：時期別)

中・長期

※データの観測(取得)及び記録(蓄積)のためにやっている具体的な内容を記載

※自らの実施工業(作業量)を記載するイメージ(例：観測や点検の回数)
※滞りなく継続・正常稼働できているかという状態を把握する指標(状態指標)を用いることも可能(例：稼働率(稼働時間・欠測時間)、観測器設置数、点検実施率)
※機材・設備更新等による観測精度の維持・向上(誤差拡大予防効果)を書くことも一案

※観測(取得)データが使われた、ニーズに合致している、フィードバックを踏まえ改善したといった「社会との接続」を記載するイメージ
※利用者価値やユーザ反応、利用・提供実績を把握できる指標を記載し、この欄を毎年見直す ⇒これにより、アクティビティの有効性・正当性を確認し、インプットの効率性やその活動に携わる職員のやりがいを高める

※長期の利用者価値、環境変化への対応等を把握できる指標を記載(例：利用者の行動変容状況、外部環境変動も踏まえた観測・記録に係るシステムリスクの回避状況(機材・設備更新等による観測精度の維持具合、欠測率の低下効果等))
(※多くの場合、この欄は固定化)

注(環境感応性が本質的特徴であるため)外部要因を排除して各欄を評価することは適切でない